

はざま医院かわら版

平成 15 年 5 月 20 日
SARS(サーズ)について

SARS の特徴

SARS (重症急性呼吸器症候群, 通称サーズと呼ばれています)は, 新種のコロナウイルスによって起るとされています. 通常のコロナウイルスは大人の鼻カゼのありふれた原因ウイルスで, 自然になおる軽いカゼを引き起こすだけです, 今回の新種のコロナウイルスは, 肺炎を引き起こし毒力が高いため 5~20% くらいの死亡率があります. 症状としては 38 度以上の高熱, 咳, 倦怠感などが上げられます.

私も SARS ではと心配している方に

カゼ症状でいらっしゃる患者さまの中に「私も SARS では?」と心配される方も多々みえますが, まずお話ししておきたいことは「火のないところに煙は立たず」ということです. この場合「火」とは SARS ウィルスとの接触です. つまり大切なこととして, 10 日以内に SARS と診断された人との直接の接触がなければ, SARS にはならないということです. SARS の流行地域から帰国された方であっても, 帰国後 10 日以上経ってから発症したのであれば, SARS ではありません. この理由を簡単に述べます. なお SARS 流行地についての情報は下記サイトから得られます <http://idsc.nih.go.jp/others/urgent/area>

SARS の発症

感染経路は人から人への飛沫感染 (ひまつかんせん) です. 咳や鼻水などと共に飛び出した分泌物の飛沫の中にウイルスが入っていて, それのついた手で目や鼻をこすったときに感染します. 普通の石鹸による手洗いやアルコールを使った消毒で十分殺菌できますから, それらによる手洗い消毒をお勧めします. マスクですが, SARS ウィルスはいつまでも空気中に浮遊していることは考えにくく, SARS 専門病院の医師のような, 濃厚に SARS ウィルスと接触する職業の人は別として, 一般社会ではマスクを着用しても暑苦しいだけで余り意味はないと思います. 鼻をこすらないためのカバーとしては意味があるかも知れませんね.

SARS の発症

SARS 患者さんは, 例えば SARS の患者さんが泊まった同じホテルやマンションにいたような場合など, いずれも SARS ウィルスとの直接の接触があった場合のみ発生しています. 流行地域に出かけた場合も, 偶然 SARS 患者さんと接触していた可能性があるため, 流行地域からの帰国 10 日以内に 38 度以上の発熱を伴ったカゼ症状を発症した人は, 念のため慎重に経過を見る必要があります. しかし現在日本国内にいる限り SARS の人と接触する可能性はほとんどありませんから, 国内にいてカゼ症状になった人は SARS の心配はありません. ここで 10 日という日数ですが, これは SARS ウィルスが体の中に侵入して発症するまでの最長期間です. これを超えてまで体の中に無症状で潜んでいて発症することは, 現在の所ないようです.

SARS を心配したら

では, 万が一 SARS が疑われる方がみえたとしたら, どのように行動すべきか現時点での方針を申し上げます. 呼吸が苦しいと言うような肺炎が疑われる症状がすでにある人は, 直接 SARS 対応病院 (この地域では東市民病院 721-7171) に事前に直接電話連絡をしてから受診してください. 肺炎症状がない場合は地元保健所か, はざま医院のような開業医にご相談ください. ただし受診される前に必ず電話でご一報ください.

科学的行動をとりましょう

世間のうわさやメディアの報道など, 耳に入り易いことを信じてしまうのが人間の自然な心理ですが, 科学的には以上述べましたように国内にいる限り SARS にかかる可能性はないと言って良いと思います. この事実に基づいて通常どおりの生活を送っていて何も怖いことはありません.

下記の時間帯に予防接種専用時間を設けました.
どうぞご利用ください

毎週 火・水曜日 午後 4~4 時半